

2012年3月21日

第22回再処理・リサイクル部会 全体会議 議 事

1. 部会長挨拶
2. 平成23年度 再処理・リサイクル部会 部会賞贈呈式
3. 2011年度活動報告
4. 2011年度予算報告
5. 2012年度活動計画
6. 2012年度予算計画
7. 部会内規の改定
8. その他

GLOBAL2011報告

1. 部会長挨拶

再処理・リサイクル部会

井上 正 部会長(電中研)

2. 第7回再処理・リサイクル部会 部会賞贈呈式

功績賞

フッ化物揮発法を応用した先進的再処理技術への貢献

日立GEニュークリア・エナジー(株) 河村 文雄 様

業績賞

各種媒体におけるウラニル錯体の性状研究及びその再処理及び
放射性廃棄物処理技術への応用研究

東京工業大学原子炉工学研究所 池田 泰久 先生

3. 2011年度活動報告:全体

- (1) 9月20日 第21回部会全体会議(小倉)
- (2) 12月11~16日 GLOBAL2011
- (3) 12月20日 拡大運営小委員会・・・活動計画、予算計画他
- (4) 2月21日 拡大運営小委員会・・・全体会議準備、
部会セミナー企画他
- (5) 3月 平成23年度 再処理・リサイクル部会 部会賞決定
- (6) 3月19~21日 第22回部会全体会議、企画セッション(福井大)
- (7) その他 クリーンアップ分科会に部会メンバーが多数参加

3. 2011年度活動報告：トピックス

(1) GLOBAL2011の報告(後ほど紹介)

(2) クリーンアップ分科会での活動

- ・活動・・・活動開始(立ち上げ)は2011年4月23日 会員(オブザーバー含め)約50名
 - 会合:2012年1月18日までに11回の会合開催
- ・具体的活動
 - 提言:①環境回復について以下を提言(2011.6.8)
 - (提言1)環境放射線モニタリングセンター、環境回復センターの設置
 - (提言2)放射性物質の除去に向けた環境回復戦略構築
 - (提言3)環境回復技術プログラムの早期提示
 - (提言4)地域住民参加のものの活動
 - ②環境修復センターの設置及び除染モデル事業による速やかな実証に関する提言(2011.7.29)
 - 情報収集:EURANOSハンドブックの翻訳(居住エリア除染(59件)、食料生産(58件)、飲料水管理(6件))等
 - 発信:除染技術カタログ(64件)と環境修復技術説明資料の公表
 - 検証等:現地での除染モデル検証によるデータ取得と情報交換
 - 8/8から9/16にかけ、JA南相馬の協力のもと除染試験を実施
 - 水田圃場の2回の荒搔きでセシウム濃度を1/4にすることを確認
 - 講演:安全・安心フォーラムにおいて、「放射能除染の必要性と課題」を説明
 - 環境省への協力:環境省が提示した「廃棄物ガイドライン」(12月28日)の補足事項として、技術的考慮事項を提示

4. 2011年度予算報告

		項 目	予算 (円)	実績 (円)	説 明
収入の部	一般正味財産	部会収入	1,410,000	295,000	
		平成22年度繰越金	0	0	
		通常予算	295,000	295,000	
		平成21年度部会配付金	295,000	295,000	
		その他収入	0	0	
		セミナー	1,115,000	0	
		参加費など	1,115,000	0	
		部会補助金収入	0	0	
	指定正味財産	2,667,002	2,667,002	GLOBAL2005余剰金	
支出の部	一般正味財産	部会支出	2,703,000	1,572,000	
		通常予算	1,685,000	1,572,000	
		会議費	10,000	0	
		通信運搬費,その他	28,000	50,000	H22部会賞副賞
		旅費交通費	75,000	0	
		諸謝金	60,000	10,000	
		管理費配賦額	62,000	62,000	
		負担金支出	1,450,000	1,450,000	GLOBAO2011準備金
		セミナー	1,018,000	0	
		会議費	320,000	0	
		旅費交通費	150,000	0	
		諸謝金	150,000	0	
		一般外注経費	200,000	0	
		その他支出	174,000	0	
		本部繰入金	24,000	0	
収支 (一般正味財産)		▲1,293,000	▲1,277,000	赤字分は指定正味財産より補填	
収支 (指定正味財産)		1,374,002	1,390,002		

5. 2012年度活動計画:全体

- (1) 4月 拡大運営小委員会・・・平成24年度活動・予算計画、
部会セミナー準備他
- (2) 7月 第8回再処理・リサイクル部会セミナー
- (3) 7月 拡大運営小委員会・・・全体会議、ぎんぎんセミナー
準備他
- (4) 9月19～21日 第23回部会全体会議(広島大)
- (5) 10月16～19日 ANUP(中国)
- (6) 11～12月初旬 ぎんぎんセミナー
- (7) 11～12月 拡大運営小委員会・・・平成24年度活動・予算実績、
平成25年度活動・予算計画他
- (8) 2月 拡大運営小委員会・・・全体会議準備
- (9) 2月 平成24年度 再処理リサイクル部会 部会賞決定
- (10) 3月 第24回部会全体会議(近畿大学)
- (11) その他 クリーンアップ分科会に部会メンバー参加
- (12) その他 燃料サイクルに関するテキスト作成

5. 2012年度活動計画：トピックス

(1) 第8回再処理・リサイクル部会セミナー：7月予定

- ・テーマ：福島事故後における六ヶ所再処理竣工へ向けた現状と課題
- ・主旨：再処理竣工は2012年10月予定だが、キーとなるガラス固化アクティブ試験が再開中。福島第一事故を受けて原子力規制庁の新設や法制度の改変を踏まえた上での竣工となる六ヶ所再処理工場の現状、課題について紹介、議論する。
- ・プログラム：原子力規制庁の規制方針
原子力法制度の変更内容
再処理施設の品質保証
ガラス固化技術の現状(第7回セミナー以降の進展) 他

(2) ぎんぎんセミナー：11月～12月初旬予定

- ・テーマ：これからの再処理と今後の研究開発
- ・夏以降に明らかとなる我が国の原子力計画の方針、福島支援の動向を鑑み、現在の六ヶ所再処理プラントの現状や今後の展開を中心に、広くバックエンド分野の若手研究者を集め、我が国の研究開発の今後について議論する。



5. 2012年度活動計画：トピックス

(3) 燃料サイクルに関するテキスト作成

- ・趣旨：燃料サイクルに関するテキストは既にいくつかあるが学会として情報発信したものが無いことから、学会という中立・公正な立場で燃料サイクルに関する最新の技術の解説を主としたテキストを作成する。
- ・対象：燃料サイクルに興味はあるが予備知識のない人
- ・内容：福島事故を踏まえたメッセージと技術解説の2分冊構成
 - －福島事故を踏まえたメッセージ(第一分冊)
 - －技術解説(第二分冊)
 - ・原子力発電と核燃料サイクル
 - ・ウラン資源
 - ・ウラン濃縮
 - ・核燃料加工
 - ・使用済燃料貯蔵
 - ・核燃料再処理
 - ・次世代再処理と革新的再処理の考え方
 - ・放射性廃棄物処理・処分 など

6. 2012年度予算計画

項目		予算(円)	H23年度(円)	比較増減(円)	説明
収入の部	一般会計財産				
	部会収入	1,389,000	1,410,000	▲21,000	
	平成23年度繰越金	0	0	0	
	通常予算	264,000	295,000	▲31,000	
	平成24年度部会配付金	264,000	295,000	▲31,000	
	その他収入	0	0	0	
	セミナー	1,125,000	1,115,000	0	
	参加費	1,125,000	1,115,000	0	
	その他収入	0	0	0	
	指定正味財産	1,543,802	2,667,002	▲1,123,200	GLOBAL2005余剰金
支出の部	一般会計財産				
	部会支出	1,367,000	2,703,000	▲1,336,000	
	通常予算	242,000	1,685,000	▲1,443,000	
	会議費	10,000	10,000	0	
	通信運搬費,その他	28,000	28,000	0	部会賞副賞
	旅費交通費	80,000	75,000	5,000	
	諸謝金	60,000	60,000	0	
	管理費配賦額	64,000	62,000	2,000	
	負担金支出	0	1,450,000	1,450,000	
	セミナー	1,125,000	1,018,000	107,000	
	会議費	500,000	320,000	180,000	
	旅費交通費	80,000	150,000	▲70,000	
	諸謝金	100,000	150,000	▲50,000	
	一般外注経費	300,000	200,000	100,000	
	その他支出	145,000	174,000	29,000	消耗品(1.5万),会場費(10万),副賞(2万),他
	本部繰入金	0	24,000	▲24,000	
収支(一般会計財産)	22,000	▲1,293,000	-		
収支(指定正味財産)	1,543,802	1,374,002	-		

7. 部会内規の改定

背景

- ・学会本体で、内規のレベルまでを一元管理する(一般社団法人化)
- ・フォーマットを統一する
- ・【改定】内規新設・改定は、運営小委員会の発議に基づき、部会全体会議で審議し、部会等運営委員会および理事会に報告する
- ・部会・連絡会で決裁とする規定等は名称を「要領」、「申し合わせ」等とする

改定する内規

(1)再処理・リサイクル部会運営小委員会内規

- ・第1条として、本内規は「再処理・リサイクル部会規約」第1条, 第3条および第6条に基づく旨を追記
- ・第11条として、改定条項を追記

(2)再処理・リサイクル部会賞表彰内規

- ・第1条として、本内規は「再処理・リサイクル部会規約」第1条, 第3条ならびに「部会・連絡会・支部表彰制度規程」第1条に基づく旨を追記
- ・第2条として、部会賞の趣旨を追記
- ・第8条として改定条項を追記

8. その他

部会賞の優秀講演賞推薦方法

11年秋の大会と同様に、優秀講演賞への応募を活性化するため、推薦シートを座長と拡大運営委員に配布しています。

優秀な講演があれば、推薦をお願いします。

期 限:4月27日(金)まで

方 法:推薦シートを部会庶務担当に送付

8. その他(部会運営委員(2012.3現在))

部会長:	井上 正 (電中研)	
副部会長:	藤田 玲子 (東芝)	分担
運営委員:	浅沼 徳子 (東海大)	会計
	子安 徹人 (関電)	企画(学会企画セッション、部会セミナー)
	稲垣 八穂広(九大)	企画(国際WS、ぎんぎんセミナー)
	大場 一鋭 (三菱マテリアル) .	企画(部会セミナー、国際WS)
	鴨志田 守 (日立GE)	庶務
	→代理:星野 国義 (日立GE)	
	黒田 一彦 (三菱重工)	会計
	小泉 務 (原子力機構)	企画(ぎんぎんセミナー、部会セミナー、部会HP)
	小山 真一 (原子力機構)	広報(ぎんぎんセミナー、部会セミナー)
	佐藤 修彰 (東北大)	広報(国際WS、学会企画セッション)
	澤田 佳代 (名大)	企画(学会企画セッション、部会セミナー)
	鈴木 達也 (東工大)	企画(学会企画セッション、ぎんぎんセミナー)
	富田 邦裕 (東電)	
	中村 裕行 (日本原燃)	広報(六ヶ所情報、国際WS)
	加納 正規 (日本原燃)	
	飯塚 政利 (電中研)	企画(学会企画セッション、部会セミナー)
	日山 伸行 (原燃工)	広報(部会セミナー、国際WS)
	梅田 幹 (原子力機構)	庶務
	多賀 純一 (東芝)	広報(学会企画セッション、国際WS)

顧問: 竹内哲夫(元原子力委員会/東電)、近藤駿介(原子力委員長)、田中知(日本原子力学会会長)

参与: 野村茂雄、土尻滋、小山智造、峯尾英章、天野治、駒義和、藤田雄二、森田泰治、松村達郎(原子力機構)、鈴木一弘、鈴木一雄(東電)、向原進、徳森律朗、山澤正俊(東電)、西村友宏(電中研)、池田泰久(東工大)、松本史朗(JNES)、田辺哲朗(九大)、山名元、白井理(京大)、山村力(東北大)、波多野守(エネ総研)、倉重有幸(原燃工)、半沢正利(MMC)、有田裕二(福井大)、森行秀(MHI)、深澤哲生(日立GE)、山田和矢(東芝)

GLOBAL 2011

Makuhari-Messe, Chiba
Dec. 11-16, 2011
(Dec. 16 Tsuruga session)



Nagoya
Congress Center
Sept. 4-9



Makuhari Messe
Dec. 11-16

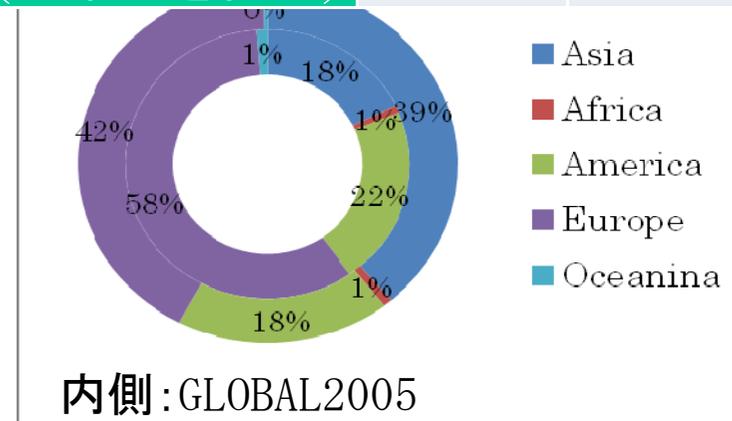
- ・主催者
- ・共催
- ・後援

(社)日本原子力学会
日本原子力研究開発機構
米国原子力学会 (ANS)・カナダ原子力学会 (CNS)
中国原子力学会 (CNS)・欧州原子力学会 (ENS)
フランス原子力学会 (SFEN)・インド原子力学会 (INS)
韓国原子力学会 (KNS)・国際原子力機関 (IAEA)
経済協力開発機構原子力機関 (OECD/NEA)

参加者

国名(国籍)	参加者数
Japan	263
U.S.A.	43
Republic of Korea	43
France	42
China	34
Russian Federation	23
Germany	13
India	10
Italy	5
Sweden	4
Taiwan	4
Netherland, Thailand, U.K.	3
Canada, Czech Rep., Ukraine	2
Argentina, Australia, Belgium, Estonia, Finland, Indonesia, Kazakhstan, Lao People's Democratic Republic, Latvia, Luxembourg, Mongolia, Nigeria, Romania, Spain, Switzerland, Uganda, Viet Nam	1
Total (34力国)	516

	GL 2005	GL 2011
Japan	385	263
Asia	42	98
Africa	2	2
America	51	46
Europe	138	106
Oceanina	3	1
Total (日本人含まず)	236	253
Total (日本人を含む)	621	516



内側: GLOBAL2005
外側: GLOBAL2011

投稿数

Topic No.	Topic	Total	Abstract			Full Paper		
			Total	oral	poster	Total	oral	poster
		436	323	113	323	243	80	
0)	Fukushima Daiichi Accident	20	11	9	13	6	7	
1)	Nuclear Energy Strategy	2	2	0	2	2	0	
2)	Sustainability of Nuclear Energy Systems	7	6	1	5	4	1	
3)	Fuel Cycle Strategy	8	8	0	6	6	0	
4)	Advanced Fuel Cycle Systems (LWR to FR)	34	25	9	26	18	8	
5.0)	Partitioning & Transmutation	5	5	0	5	5	0	
5.1)	Partitioning	33	21	12	23	13	10	
5.2)	Transmutation	11	10	1	10	9	1	
6)	Advanced Reprocessing Technologies	56	34	22	36	24	12	
7)	Advanced Fuels/Targets and Materials	56	37	19	42	29	13	
8)	Innovative Nuclear Energy Systems beyond 2030	18	14	4	14	12	2	
9)	Improvements in Reprocessing and Vitrification Technologies	41	31	10	30	25	5	
10)	Radioactive Waste Treatment and Disposal Options	35	24	11	30	18	12	
11)	Spent Fuel Management	12	10	2	10	8	2	
12)	Uranium Resource and Fuel Supply	7	4	3	6	4	2	
13)	Advanced Reactors	22	20	2	9	9	0	
14)	Nuclear Safety	20	16	4	15	13	2	
15)	Nuclear Hydrogen and Other Utilization	3	2	1	3	2	1	
16)	Proliferation Resistance, Safeguards and Nuclear Security	18	18	0	16	16	0	
17)	Multilateralization of Nuclear Fuel Cycle	7	7	0	6	6	0	
18)	International Cooperation, Research and Test Facilities Sharing	7	5	2	5	3	2	
19)	Social Issues and Public Acceptance	5	4	1	4	4	0	
20)	Human Resource Development	9	9	0	7	7	0	

プレナリ・パネル

Welcome Address	
Opening:	Nuclear prospect of each country after the Fukushima Accident
Plenary	
I	An over view on Fukushima Accident
II	Reports from the nuclear safety investigation commission of AESJ and global view on the Fukushima Accident
III	Fuel Cycle
IV	Reprocessing, Pu utilization and spent fuel management
V	Safty and Security
Evning Session:	Figures of the earthquake and Tsunami, and Chernobyl accident
Panel	
I	Nonproliferation -Multilateralization, Fuel Supply
II	Partitioning and Transmutation
III/IV	Fostering of Personnel

ポスター賞

Poster No.	Title and Author
355757	Computer code development for flow-sheet design and modeling with verification towards a novel partitioning process Daniel Magnusson (KIT), Andreas Geist, Andreas Wilden, Giuseppe Modolo and Rikard Malbeck
387804	A study of highly concentrated fission product salt loading into zeolite-A James R Allensworth (North Carolina State Univ.), Man-Sung Yim, and Michael F.
391363	Study on transmutation of long-lived fission product using high-temperature gas-cooler reactors Hiroyuki Nakaya (Kyushu Univ.), Shohei Kouchi, Satoshi Shimakawa, Hideaki Matuura, Takashi Yasumoto, Yasuyuki Nakao, Minoru Goto and Shigeaki Nakagawa
391554	A flow-assisted electrode reaction modeling for pyroprocess simulation Kwang-rag Kim (KAERI), Tack-jin Kim, Jun-bo Shim, Seungwoo Paek, Do-hee Ahn and Han-soo Lee
391629	Characterization of precipitates formed in simulated high-level liquid wastes Ayako Murao (Tohoku Univ.), Hitoshi Mimura, Akira Kirishima, Yoshikazu Kondo, Kazunori Nomura, Tadahiro Washiya
449199	Study on absorption of radioactive iodine in nitric acid solution using Hydroxylamine nitrate Haruaki Tokuda (JNFL), Yan Wu, Tsutomu Tada, Keitaro Hitomi, Seong-Yun Kim, Hiromichi Yamazaki and Keizo Ishii
462855	Strontium Decontamination from the Contaminated Water by Titanium Oxide Adsorption Youko Takahatake (JAEA), Sou Watanabe, Atsuhiko Shibata, Kazunori Nomura, Yoshiyuki Ito and Yoshikazu Koma

共同声明文(1)

(参考 日本語訳)

2011年12月15日

グローバル2011は、核燃料サイクルに関する第10回の国際会議として2011年12月11-16日に千葉市の幕張メッセにおいて開催され、東京電力福島第一原子力発電所の事故を様々な観点から検証し慎重に検討した。多くの討議と熟慮の結果、世界中から集まった500人を超える専門家は、以下の声明を発表することに合意した。

1. 事故の分析、学んだ教訓の集積、そして、今後のリスク管理は、世界のいかなる場所においても、あのような事故の再発を防止し、原子力の継続を強化するものである。
2. 経済成長、特に発展途上国における経済成長に伴う世界の人口とエネルギー需要の増大は、すべてのエネルギー源の利用を必要としている。原子力は、温室効果ガスの低減とエネルギーの供給保障の両立に貢献するものである。
3. 効果的で持続可能な資源の利用や放射性廃棄物の低減を可能とし、将来のニーズを解決する核燃料サイクル技術の研究開発を継続することは、より高い効率を得つつ安全性に関する要求を満足するために不可欠である。

共同声明文(2)

4. 原子力産業界は、情報伝達の透明性を確保し、公衆の信用と信頼を再構築しなければならない。
5. 核拡散防止に関するコストと安全性と信頼は、原子力活動における世界各国の協働の促進を必要とする。
6. 原子力技術開発に関する知識の集積と理解と共有は、極めて重要である。次回のグローバル会議は、2013年に、米国及びアイダホの原子力学会とアイダホ国立研究所の主催により、ソルトレークシティにおいて開催される。



ご協力ありがとうございました